

ナビポイントファイル変換ツール  
Ver3.0  
マニュアル

# 目次

1. ご利用にあたり必要なファイルと準備 … 3
2. 変換処理 … 5
  - 2-1. 処理1 … 5
  - 2-2. 処理2 … 5
  - 2-3. 処理3 … 7
  - 2-4. 処理4 … 9
  - 2-5. 編集なしの簡単作成 … 10
3. 編集画面の補足 … 11
4. Google マップ URL の注意点 … 12
5. 測地系について … 14
6. その他 … 14
7. 動作確認済みの機種 … 15
8. 注意事項等 … 15

## 1. ご利用にあたり必要なファイルと準備

トヨタ純正ナビのメモリ地点にオービスデータを登録する方法です。

SD カードにメモリ地点の保存が可能なモデルであれば可能な確率は高いですが稀に登録出来ない機種があります。

ナビ側の操作については触れませんのでマニュアルを参照してください。

まず SD カードにナビに設定しているメモリ地点を保存してください。

この時点でナビ側のメモリ地点は、全て抹消されましたので、万一の為に別にバックアップも取っておきましょう。

次に SD カードを PC に繋いで保存されたメモリ地点のファイル「MPT.BIN」を PC にコピーしてください。

ahopapara さんの HP から mptutil と pmf2mptutil.awk を DL してください。

(当ツールは ahopapara さんのツールを利用することで動作します)

ahopapara さんの HP

<http://ahopapara.hp.infoseek.co.jp/>

gawk win32 も DL します。

gawk win32

<http://www.vector.co.jp/soft/win95/util/se015007.html>

パナ形式のオービスデータは、ネットを検索して探してください。

ナビポイントファイル変換ツール Ver2.9(当サイトのツール)

以上がオービスデータ作成に必要なファイルとなります。

適当なフォルダを作成し、DL したファイルを全て入れます。

(作業は全て同一のフォルダで行います)

全部同じフォルダに入れたら pmftobin.exe を実行してください。

パナソニックナビ形式→トヨタMAP変換手助けツールVer3.0

処理1～処理4の順に変換やマージ処理を行ってください。  
(難しいことは分からない! という方は下にある「編集なしの簡単作成」ボタンからどうぞ)

click Me!

パナソニックナビ形式→トヨタMAP変換の流れ


作業フォルダ: C:\Documents and Settings\Administrator\デスクトップ\pmftobin2\sample#\br/>
 ※作業フォルダにmptdec.exe、mptenc.exe、gawk.exe、pmf2mptutil.awkが存在するか確認して実行してください。

**処理1**

トヨタナビ既存のメモリ地点ファイルMPT.BINをmptutil形式にフォーマットします。  
 ※ナビからMPT.BINを取得し作業フォルダにコピーしておく必要があります。  
 変換後の出力ファイル名はMPT.txtです。

出力PDタイプ

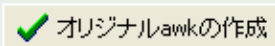

※出力PDタイプは通常、変更の必要はありません。



**処理2**


パナソニックナビ形式のオービスデータをmptutil形式にフォーマットします。  
 ※予めパナソニックナビ形式のファイルから必要なデータのみ抽出しまとめて保存するか変換毎にoutput2.txtよりデータを抽出しまとめてください。

変換後の出力ファイル名はオリジナルファイルと同じ名前が拡張子がtxtです。


**処理3(手作業)**

作成した複数のテキストファイルを読み込み手動でマージする。  
 最初に登録したメモリ地点ほど下に表示されるので元々ナビにあるデータを下にした方が使いやすい。  
 行数が400行を超えるとナビには正常に登録されません。400行を超えないように編集してください。



**処理4**

処理3で作成したファイルをmptutilを使用しトヨタナビ形式(MPT.BIN)にフォーマットします。  
 処理が成功すればMPT\_OUT.BINというトヨタ純正ナビフォーマットのファイルが出来上がります。  
 ※出力されるファイルはオリジナルデータ保護の為「MPT\_OUT.BIN」で出力されます。MPT.BINに名前を変更してSDカードへ書き戻しナビのメモリ地点を更新してください。



※ナビのオリジナルメモリ地点ファイルMPT.BINは必ずバックアップを取っておいてください。

画面に書いてある通り、処理1～処理4まで順番に進んでいけばトヨタナビのメモリ地点ファイルが完成します。

今現在のナビのメモリ地点が、全て消えてもいいのであれば、処理1は飛ばしても結構です。

難しいことは分からない! という方は、「編集なしの簡単作成」機能をご利用ください。

## 2 . 変換処理

### 2-1 . 処理 1

実行すると MPT.BIN ファイルを mptutil 形式のファイルに変換します。  
無事変換されれば処理 1 は終了です。

「出力 PD タイプ」は、通常変更の必要はありません。  
測地系を独自に変更したい方のみ変更してください。

### 2-2 . 処理 2

パナソニックナビ形式のファイルを mptutil 形式のファイルに変換します。  
特にこだわりが無ければ「オリジナル awk の作成」は飛ばして実行で結構です。  
実行をクリックしパナソニックナビ形式のファイルを選択すれば  
awk のルールに則り mptutil 形式に変換されます。  
拡張子が pmf から txt に変わって出力されたファイルが mptutil 形式となります。

(拡張子以外の名前は変更されません)

必要な数だけ pmf から変換してください。

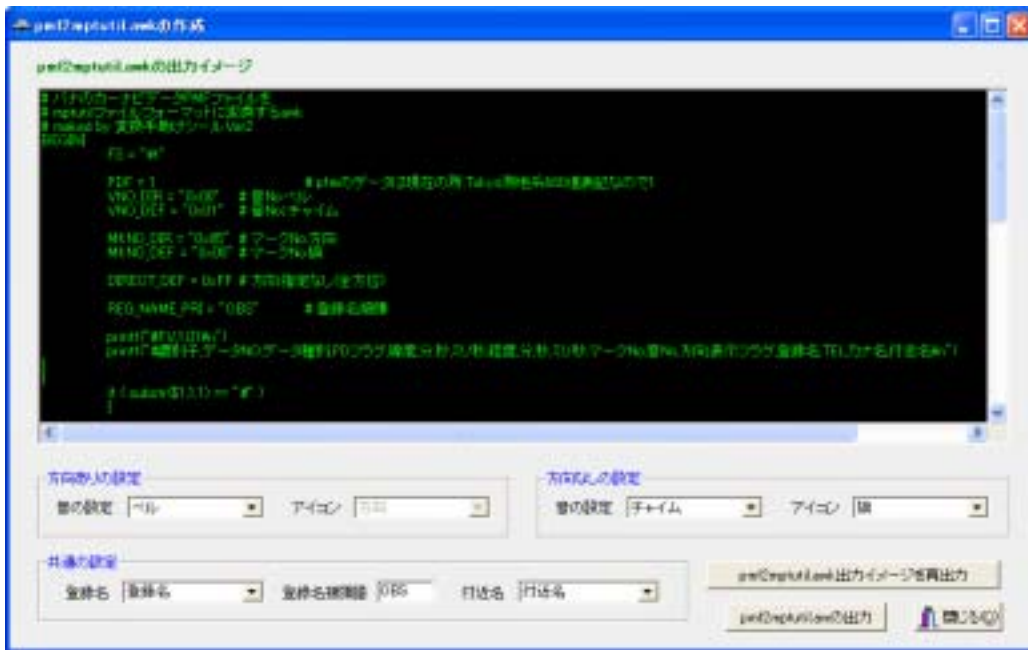
処理 3 にて変換したファイルを使用しますので、ファイル名は覚えておいてください。

処理 2 の変換時点でアイコンや音声を変更したい場合、処理 2 の変換実行前に  
「オリジナル awk の作成」をクリックします。

処理 2 の変換は pmf2mptutil.awk のルールに則り変換されます。

(処理 3 で行単位での変更も可能ですが、大量のデータを変更したい場合、操作もその分必要になりますので、この  
時点で一括変換しておくのが楽です)

すると以下の画面が表示されますので、お好みに設定してオリジナル awk ファイルを出力します。



「**方向ありの設定**」とは方向性のメモリ地点として登録されているデータに対して有効です。  
(特定の方向からのみメモリ地点に近づいた際に音声が出るメモリ地点です)

「**方向なしの設定**」とは通常の音声ありメモリ地点として登録されているデータに対して有効です。  
(どの方向から近づいても音声が出るメモリ地点です)

「**共通の設定**」では「登録名」「登録名接頭語」「付近名」を設定します。

「**登録名**」はトヨタナビの登録名に、パナ形式のどの部分を使用するかを設定します。

「**登録名接頭語**」は登録名を作成する際に、名前の前に入れたい文字を指定します。

特に何も指定しない場合は、空白で構いません。

例:登録名に付近名、接頭語に OBS を指定した場合は

トヨタの登録名は「OBS 高速 付近」のようになります。

「**付近名**」はトヨタの付近名に、パナ形式のどの部分を使用するかを設定します。

以上の設定が終わったら「pmf2mptutil.awk の出力」をクリックすれば、オリジナルの awk が出力されます。

### 2-3. 処理 3

処理 1、処理 2 にて、それぞれ出来上がった mptutil 形式のファイルを、既にマージしている場合、処理 3 は飛ばして結構です。

ツールを使用して複数のファイルをマージしたり、追加、削除、編集を行う場合は実行をクリックします。すると以下の画面が表示されますので、編集作業を行います。



それぞれの機能について説明します。

「ファイルの追加」 mptutil 形式のファイルからデータを読み取り、編集画面に表示します。

処理 1、処理 2 で作成したファイルは、このボタンで画面上に取り込みます。

この編集画面にファイルをドラッグ&ドロップしてもデータの追加が可能です。

複数ファイルを一気にドラッグ&ドロップしても OK です。

ナビ上のメモリ地点一覧表示では、最初の行ほど下に表示されますのでよく使うメモリ地点を後から取り込み下に置いた方が、ナビメモリ地点の使い勝手が良いと思います。(後に追加したデータほど、ナビ上では上に来るということです。)



「**全件削除**」 取り込んだデータを全件削除します。

「**選択行削除**」 不要なデータを削除する場合に使用。選択されている行を削除します。

「**選択行の編集**」 選択行を編集します。(後で詳しく説明します)

編集したいデータをダブルクリックでも、編集画面を開くことができます。

「**行の追加**」 新しい行を追加します。(設定する項目は編集と同じ内容です)

「**Google マップで開く**」 選択行の座標を Google マップ上に表示します。(要 IE)

「**上へ**」「**下へ**」 選択行を上下させます。

「**ファイルの書き込み**」 最終的に編集されたデータを mptutil 形式で出力します。

(**ファイルの書き込み直前にデータ NO を1から振り直します**)

一覧表示の項目に「**取込フラグ**」があります。

この項目に入る値は以下のようになります。

「**新規**」 ファイルからデータを新規に追加

「**重複**」 ファイルからデータを追加する際、重複チェックに引っ掛かり、追加されなかった

「**手動追加**」 ユーザーが手動で追加

「**重複行(データ追加時)は色を変える**」 チェックすることで簡単に重複行を特定可能です。

以下のような利用方法を行うと便利です。

1. 既存データを取り込む。
2. データが更新された新しい pmf ファイルを取り込む。
3. 既存データ行の非重複行は、新しい pmf ファイルでは削除された可能性がある。
4. 新しい pmf ファイル部分での非重複行は、新規に追加されたメモリ地点である。

「**自宅に近い順に並び替**」 その名の通り、データを自宅に近い順で並び替えます。

自宅はデータの一番上になります。

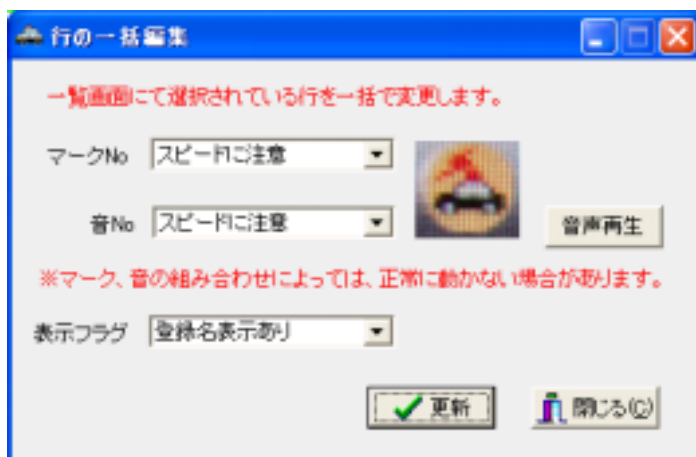
**自宅からの距離は、実際の道路の距離ではなく**

**緯度・経度の差分の絶対値を足した数値で比較しています。**

編集データが 400 件を超えている場合、データの削除が必要となりますが

この機能を使うことで、自宅から遠いデータを優先的に削除し易くなります。

「**選択行の一括変更**」 選択行の音声・アイコン・表示フラグを一括で変更出来ます。





「**マーク・音情報の保存**」一覧にあるデータの座標情報を元に、マーク・音情報をファイル保存します。

(ファイル名は pmftobin\_1.dat で、EXE と同じディレクトリに保存されます)

保存の際は、新規にファイルを作成し直しますので、前回保存のデータは失われます。

「**マーク・音情報の復元**」保存したファイルを元に、同じ座標のデータのマーク・音情報を復元します。

当然ながら保存されていない座標のデータは、復元することは出来ません。

(座標が一致しないデータは、復元の対象外となります)

「**マークの一括選択**」このボタンを押すことで、選択行と同じマークの行を全て選択する事が出来ます。

「**音声再生**」選択行や登録画面で選択した音声を確認することが出来ます。

ボリュームの調整は「データのマージ」画面、または Windows の音声プロパティ画面から行ってください。

(アプリ起動時に Windows のボリュームを記憶し、終了時に記憶したボリュームに戻します)

音声の再生は WindowsMediaPlayer の機能を利用しています。

環境によっては再生出来ない場合がありますのでご了承ください。

## 2-4 . 処理 4

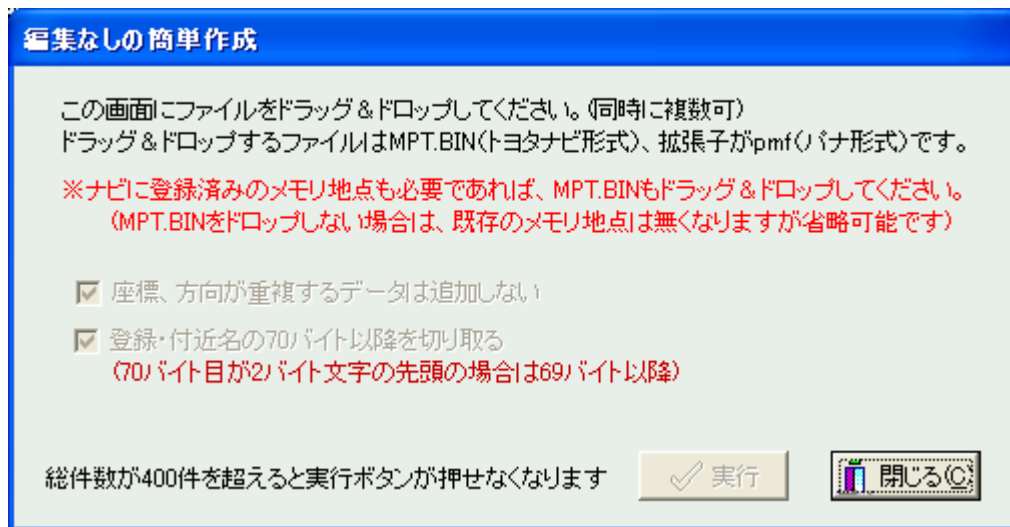
実行をクリックするとファイルダイアログが開きますので、処理 3 で作成した(手動で作成した) mptutil 形式のファイルを選択すればトヨタナビ形式の MPT.BIN を出力します。

完成した MPT.BIN ファイルを SD カードに書き戻し、ナビに取り込めば全て完了です。

mptenc で変換するとパスワードは「0000」になるようです。

パスワードを聞かれたら「0000」を入力してください。

## 2-5 . 編集なしの簡単作成



難しい事は行わず、簡単にオービスメモリ地点を作成する画面です。

操作は簡単！

この画面にトヨタナビのメモリ地点ファイル(MPT.BIN)とパナ形式のオービスポイントファイル(pmf形式)のファイルをドラッグ&ドロップするだけです。

**最初**に書いている**実行に必要なファイルは揃える必要があります**

総件数が400件を超えないようにデータをドラッグ&ドロップで追加し実行ボタンを押します。

MPT.BINの保存先フォルダ選択ダイアログが表示されますので、任意のフォルダを指定すればMPT.BINが作成されます。

あとはSDカードにMPT.BINをコピーしナビに書き戻すだけ！

元々MPT.BINに登録されていたメモリ地点が最後に書き出されます。

これにより元々メモリ地点として登録してあった地点がナビ表示時に上段に表示されます。

### 3. 編集画面の補足

データの編集時(新規追加も同じ)には、以下の画面が表示されます。

行の編集

識別子 #P    データNO 1    データ種別 0x00    PDフラグ 0

データ種別 0x00:通常 0x10:自宅 0x2?:特別メモリ

PDフラグ 0:位置情報:WGS84測地系60進表記 1:位置情報:TOKYO測地系60進表記  
2:位置情報:WGS84測地系10進表記 3:位置情報:TOKYO測地系10進表記

緯度 33 分 21 秒 22 ミリ秒 818    Googleマップで開く

経度 130 分 32 秒 18 ミリ秒 345    Googleマップから変換

マークNo 方向    方向 0    0:北 時計回りに値1が 11.25度 (北東4,東8,...)  
255:方向なし

音No ベル    音声再生

※マーク、音の組み合わせによっては、正常に動かない場合があります。

表示フラグ 登録名表示あり

登録名 OBS#九州上り100.6/H

TEL

カナ名

付近名 #九州上り100.6/H

方向の確認    更新    閉じる

「識別子」「データNO」「データ種別」「PDフラグ」は編集出来ません。

「データ種別」「PDフラグ」の意味は、画面に表示されている通りです。

緯度、経度などの位置情報は「PDフラグ」の内容により、設定すべき数字が変わります。

「Googleマップで開く」をクリックすると、設定されている座標を元に、Googleマップを表示します。

「Googleマップから変換」をクリックすると、URL入力画面が表示されるので

GoogleマップのURLを入力すれば、自動的に座標に変換します。

(変換画面に表示される「PDタイプ」は、データのPDフラグを元に自動的に選択されていますので、通常は変更する必要はありません)

GoogleマップURLの注意点については後述します。

「マークNO」メモリ地点に表示したいマークを選択します。

「音NO」メモリ地点に近付いた際に鳴らしたい音を選択します。

「方向」方向性を持つメモリ地点にしたい場合には、255以外の数字を指定します。

方向を指定しない場合は、255を。方向を指定する場合は、後述する数値を指定してください。

「表示フラグ」 ナビのメモリ地点のアイコン部に、登録名を表示するかしないかを設定します。

「登録名」 トヨタナビのメモリ地点の登録名を設定します。

「TEL」 トヨタナビのメモリ地点の電話番号を設定します。

「カナ名」 トヨタナビのメモリ地点の登録カナ名を設定します。

「付近名」 トヨタナビのメモリ地点の付近名を設定します。

「更新ボタン」 設定した内容をデータ一覧のデータへ更新します。

「方向の確認」 以下のウィンドウが表示されますので、方向の数値の確認、設定が行えます。



ウィンドウは半透明ですので、Google マップなどに重ねてから、方向を確認することが出来ます。

各ボタンをクリックすると、矢印の向きが変わりますので、方向を持たせたい進行方向に矢印を向け、方向が一致した時に画面に出ている数値が、「方向」に設定する数値となります。

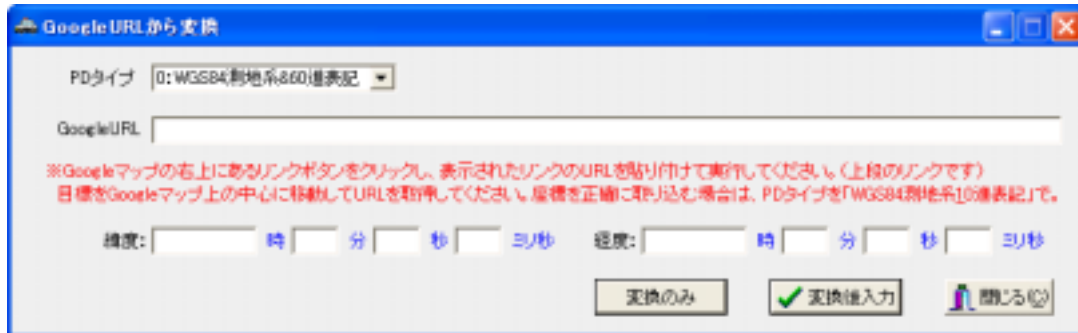
ウィンドウの透明度の変更も可能です。

当アプリの方向ウィンドウ以外を最小化することでブラウザとの重ね合わせが楽に行えます。

(方向ウィンドウを閉じれば最小化されたウィンドウは元に戻ります)

## 4. Google マップ URL の注意点

### Google マップ URL 変換画面



単純に「東京タワー」の様にマップで検索を掛けると、以下のような画面が表示されます。

(右側の地図が小さく表示されています)

この状態でリンクをクリックし URL を取得しても、URL に座標情報は含まれません。

この場合は、赤丸の部分(どちらでも可)をクリックして、地図を拡大してください。



地図拡大状態で赤丸のリンク部分をクリックすると、URL が表示されますので

上段の URL をコピーし、URL 変換画面に貼り付けてください。

地図を最大まで拡大した状態で、目標の座標が真ん中に来るようにしてから

URL のリンクボタンを押し URL を取得してください。

左の検索結果の「東京タワー」リンクをクリックし地図を表示させると、目標の座標は真ん中ではなく少し下に表示される事がよくあります。

(説明の吹き出しを表示させるために、少し下にずらして表示していると思われます)

また座標を「WGS84 測地系&60 進表記」へ変換せずに正確に取り込みたい場合は変換画面にて「WGS84 測地系&10 進表記」を選択してから変換ボタンを押してください。

(このツールが内部的に使用している ahopapa さん作の mptutil は、行毎の測地系の違いをサポートして正しく変換を行います)





## 5. 測地系について

mptutil にて使用可能な測地系は、以下の 4 つとなります。

[WGS84 測地系&60 進表記](#)

[TOKYO 測地系&60 進表記](#)

[WGS84 測地系&10 進表記](#)

[TOKYO 測地系&10 進表記](#)

トヨタのメモリ地点データは、WGS84 測地系&10 進表記を使用しています。

Google マップもトヨタメモリ地点と同じで WGS84 測地系&10 進表記を使用しています。

(マップ上の吹き出しに表示される測地系は、WGS84 測地系&60 進表記です)

パナソニックナビ用の pmf ファイルは、TOKYO 測地系を使用しています。

mptutil がデフォルトで扱う測地系は、WGS84 測地系&60 進表記となります。

mptutil で扱う測地系は、コマンドラインのオプションで指定可能で

処理 1 の「出力 PD タイプ」が、そのオプション指定となります。

当ツールでは、基本的にそれらの変換を内部的に行っておりますが

変換の際に(実用上は問題ないであろう)誤差が出る場合があります。

測地系について、詳しくはこちらを [世界測地系移行の概要](#)

<http://www.gsi.go.jp/LAW/G2000-g2000.htm>

## 6. その他

方向性メモリ地点や、音声付メモリ地点のアイコンを変更してナビに登録した場合  
表示や動作は一般的にうまく行くようですが、メモリ地点を SD カードに書き出した場合は  
デフォルトのアイコンや音声に戻るようです。

(色々な機種での検証は出来ておりませんので、この辺りもご報告頂けると助かります)

## 7. 動作確認済みの機種

現在、動作確認済みの機種

56系 : NHDN-W56

57系 : NHZN-W57 NHDA-W57G NHDT-W57D NHDT-W57

58系 : NH3N-W58 NHDT-W58 NHZA-W58G

59系 : NHZN-W59G NHZT-W58 NHZA-W59G NHZA-W59

## 8. 注意事項等

当ソフトはフリーウェアです。

このソフトを使用してどのような損害が発生しても、作者は一切の責任を負いません。

また、本ソフトの著作権は全て作者が有します。

(マークのアイコン画像・音声は TOYOTA が著作権を有します)

マークのアイコン画像・音声はサンプルです。  
TOYOTA の許可をもらっているわけではありません。  
使用する方は、DL 後に各自削除 & 自身でアイコン・音声を用意してください。

アイコンの名前は「マーク No」に拡張子「jpg」です。  
実行ファイルと同じフォルダに image フォルダを作成し、image フォルダに画像を入れてください。  
音声ファイルの名前は「音 No」に拡張子「wav」です。  
実行ファイルと同じフォルダに sound フォルダを作成し、sound フォルダに音声ファイルを入れてください。